

病虫害防除所情報第5号

令和6年7月5日
山梨県病虫害防除所

【モモヒメヨコバイの防除対策について】

[発生状況]

- (1) 令和5年9月、県富士・東部地域の個人宅庭において、バイオチェリー（※）の葉の白化症状が認められ（図1）、ヨコバイ類の寄生が確認された。
※アメリカンチェリーとスモモの属間交雑種
- (2) 採集した当該成虫の同定を横浜植物防疫所へ依頼したところ、モモヒメヨコバイと同定された。（図2）
- (3) モモヒメヨコバイは国内ではウメ、モモ、スモモ、アンズ、オウトウ、ハナウメ、ハナモモ等のバラ科樹木を加害することが報告されている。
- (4) 昨年度の発生は、当該個人宅の庭木のみでの発生で、果樹園では被害が確認されていないこと、山梨県内で越冬しない場合は一過性の発生となることから、防除後の様子を引き続き確認することとした。
- (5) 令和6年6月に同個人宅のバイオチェリーにおいて、再び同じ症状が発生し、モモヒメヨコバイの寄生が確認され、県内で越冬する可能性が示唆された。なお、今のところ山梨県内の果樹園での被害は確認されていない。

[国内での状況]

これまでに沖縄県、和歌山県をはじめ、計25都府県で発生が確認されている。

[形態及び生態等の特徴]

(1) 形態

成虫の体長は3～3.5mmで、成虫の体色は黄緑色、複眼は黒く、頭頂部中央に特徴的な黒点（図3）がある。若齢幼虫は黄緑色である。

(2) 被害の特徴

成虫と幼虫が葉面に寄生し、吸汁することで葉色が徐々に薄くなる。葉全体が吸汁されると白化症状が見られ、被害が著しいと早期落葉することがある。葉裏には幼虫の脱皮殻が付着していることが多い。

[防除対策]

- (1) モモヒメヨコバイに登録のある薬剤を使用する。（表1）

- (2) 発生初期であれば、寄生された葉を畑から持ち出し、埋却するなどして処分する。
- (3) モモヒメヨコバイは成虫で越冬する可能性があることから、春先からの発生に注意する。

表1 モモヒメヨコバイに登録のある農薬（令和6年6月現在登録状況）

系統： RACコード	薬剤名	作物名	希釈倍率	収穫前日数－使用回数
28	テッパン液剤	小粒核果類	2,000倍	前日まで－2回以内
3A	マブリック水和剤20	ウメ	4,000倍	21日前まで－2回以内
3A	ロディー水和剤	ウメ	2,000倍	7日前まで－3回以内
3A	アグロスリン水和剤	ウメ	2,000倍	7日前まで－3回以内



図1 葉の白化症状



図2 モモヒメヨコバイ成虫

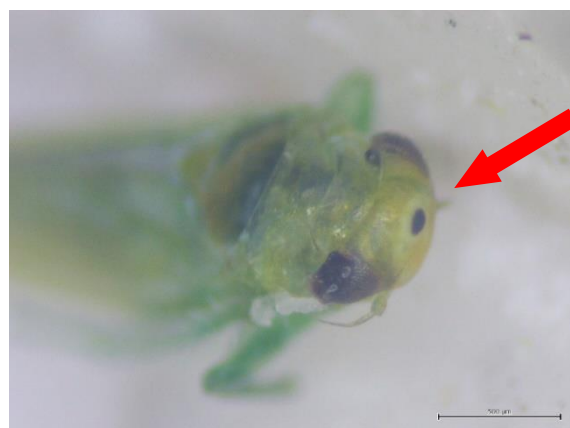


図3 頭頂部の黒点
頭頂部だけに1つ黒点があるのが本種の特徴。

[その他]

該当するヨコバイ類の発生が疑われる場合には、ご連絡をお願いします。

山梨県病害虫防除所（山梨県総合農業技術センター調査部）

電話 0551-28-2941

FAX 0551-28-2963